夕刊
磐城新聞
九月三日發行
定價 一ヶ月金六十五錢
發行所 磐城新聞合資會社
(日曜祭日翌日休刊)
東京振替一〇八●五六五五番

天氣豫報 小名濱測候所發表
今晩は南の風曇後晴
明日は西の風曇後雨

嗚呼、新妻英君

一角生

下

君と私は小學校からの親友であつた。明治三十六年に准教員養成所に共に入學した、後に一年ばかり教員をやつて歩兵二九に入營した。入營中は專心勉強し隊の成績も優良であつた、唯數學の獨學が困難だとこぼして居た、とう〳〵パスイして參謀本部の測量部に入つて同僚兵から羨しがられた。君は內地の到る所に足跡があり、我が小川村方面に來られた事もあつた、台灣から南洋も、北海道では人夫に喇叭を吹かせ熊を追ひつゝ測量された、尼港事件後に滿洲に〇〇〇やに數年活動した。その村は秀英康と呼んだ、彼のバイカル湖の〇〇の時であつた、君が丹人夫を雇ふべく出掛けた後に同僚は全部〇軍に射殺されたのであつた、村長さんにその通知を受け援軍を求めて進めば早や〇軍の姿はない

幸運に逆ひないが同僚にすまぬといつてゐた、內外蒙古の旅は又面白く只馬やラクダに乘り沙漠を越した時の話は今に忘れられない

滿洲には數回渡つて活動した『官場牛搭三才一年餘此の間一度も病氣をした事はない、全く國の軀、陛下の軀として終生皇國の爲に生れて來たことゝ頭から離れない』とは今年の年頭の言葉であつた

君は何所に行つてもヱハガキ、寫眞を送つてくれた『敎育上の參考になれば幸甚』と、今一箱に纒めてある。敎授の資料にしてゐるが、平やこれも片見の品だ、斯うなるなら書狀は全部藏して置くのであつた

『俺はあの大陸が大平洋が墓地だ』と君の前々から選んだ墓地に入寂した、四十年來の親友を喪つた私は此上なく寂しい

(六、三〇午後二時)

文學と勝負

〇△生

上

文學者は、よくヒューマニズムとかリアリズムとかを云つて、自分の所說を擴めて、世の文學者の凡てをその旗下にあつめやうとするが、これ等は、幽靈と相撲をとつてゐるやうなもので傍から見ると、誠に、おかしなものである

人間といふものは、同じ文學者だといつた所で、それ〴〵作品が違ふやうに、思考は違ふのである。それを統一してその主義の擴大運動に力を盡すなんて考へも及ばぬ事ではないが。持つ思想が同じであつたとしても、それを引つぱり込む事は文學の進展を阻害するものだ

仲間同士に賞められるやうにと腐心して、たゞその人達の鼻先のみを氣にして書いた作品に何の人生眞實があるか。考へ直して貰ひたいことだ

だからこそ、萩原朔太郎みたいな人が、口を大きくして、文學は嘘の巧みな者の作る文章だ——と言はれるのである

文學に勝負があると思つてゐるから惡いのだ。批評家や、仲間があれとこれがいいと言へば、それで、あれこれとの勝負があつたと思つてゐるのが惡いのだ。それは勝負ではない。書かれたものゝ、眞實の濃淡によるものである

文學作品に於て、何々主義とかいふのは、恰度畫をかく時に用ひる紙の色彩みたいなものなのだ

渡邊武門君送別句會

八月廿七日午後六時より北斗莊にて

兼題『葛の花』 即題『稻妻』

(五)

稻妻の涼しくなれは窓を閉つ　欣々子

いさゝかの雲に稻妻しきりなり　水明

猪苗代湖

湖騷の舟に雷光おびえけり

月夜

市川健次

秋繭賣つて　かへる頃
田圃は　月夜になりました

稻田の露は　きらきらと
虫の啼くころ　水のよう

夜つゆにしめる　草の道
だまつて父さに　ついてゆく

秋蛍がすめば　秋まつり
どこか太鼓の　音がする

9月4日

△大村益二郎刺さる(明治二)△遼陽占領(同三七)△露作家ツルゲネフ歿(一八八三)

謁熊野祠(其ノ一)

鎭座錦村大倉莊、列延喜式內、先年昇格縣社

珠雲　小野務平

丹楹碧棟聳郊墟
老木參天億太初
癸者若雲來拜跪
神靈萬古護郷閭

講談

妖刀流轉(ようとうるてん)

(182) 邑井貞吉演 佐々木今朝吉畫

意外邂逅 (十)

熊吉が翻つた口止料を卷上げるつもりだといふのを聞いて

三『フム、そりや耳寄だがその中に逃げられでもして仕舞へば虻蜂とらずだなア!』

熊『ところが、そこに如才があるもんか、實はそれ迄の抵當にと、乃公が強面で脅かして、ふん奪つて來たのがこの白鞘」、何と大した刀だらう』

三『成程道理でこの長物がお前の家に有るわけだな、然し待ちなよ、乃公アこの刀に覺えが有るぜ』

熊『そいつは又不思議だなア、乃公も確に見覺えが有ると思つて、今考へてゐた處だが、アヽそうそう思ひ出した、此刀は以前一寸知り合になつた浪人者で、大島傳五郎といふ男が、自慢で持つてゐた品に違へねえお前も大島を知つてゐたのか』

三『サア大島といふか傳五郎といふか、名前なんざア知らねが、此刀は仔細あつて一旦乃公に手渡り、乃公から江戸の道具屋で、三田の清兵衛といふ商人へ、賣つた事のある品だ、そう〳〵確かにあの刀に違へねえ』

今村昌

熊『ハテナ、それは妙な事を聞くものだ、仔細あつて一旦お前へ渡つたといふのは何いふ仔細だ』

三『今だから話をするが、實は今から一年前、乃公が故郷を立退いた時、捕手に追はれて逃げ込んだ山の中の一つ家に伯母がゐるから、其處へ頼つて行くと伯母は不在で、代りに恐ろしい面をした見なれねへ男が睡つてゐた、其奴が旅の修行者と見へての、圍爐裏の傍に其男の笈が置いてあり、雨にぬれた着衣が干してあつたから、それに着かへて姿を變へ、笈を背負つて逃げ出して來たんだ、ところが後で笈の中をあけて見ると手拭に包んで出たのがこの刀よ、おれも路用の欲しかつた處だから、中津川の兄貴に心配して貰ひ、此刀を清兵衛てえ人に買つて貰つたのだが、お前の手へこの刀が廻り廻つて來た處を見ると、清兵衛からあの屋敷へ買込んだ物に違へねえのう』

熊『それでは此刀は、その山の中の一つ家で、旅の六部が背負つてゐた、笈の中に有つたのか、その六部といふのは何んな男だつた』

三『だから今もいふ通り、一癖も二癖もありそうな恐い面をした野郎で、小鬢の所に刀傷があり、何でも武士上りらしかつたぜ』

といふと屹となつた熊吉が

熊『アッそれでは其男が、大島傳五郎に違へねえ』

三『ところで兄貴、不思議な事には世間は廣いようで狹いといふが本當だなア、昨夜その六部に俺は逢つたぜ』

これを聞くと熊吉が、驚いて膝立て直し

熊『何だと三九郎、お前昨夜その六部、イヤサ大島に逢つたといふのか、それは間違ひあるめいな』

三『餘り世間に類のねえ、怖い面の男だから、一度見たら忘れやアしねえ、大島か傳五郎か知らねえが山の中の一軒家でよく睡つてゐた笈の所有主、その時の六部がな何とお前變ぢやアねえか、腰がぬけたか覺になつての篠ケ谷とかいふ處で蒲鉾小屋に野伏りの乞食になつてゐたのを確に見て來た』

熊『エッ、そりやアお前本當か』

三『何の嘘をいつていゝものか、實は昨夜お前に別れて伊皿子の通りまで來ると俄に御用々々といふ聲、おいらも一時はギヨッとしたが後で聞けば江戸中を荒す大泥棒を追つかけて來た捕手だつたので、ホッとしたといふ譯よ』

晝夜診療
外科一般 內臟外科 レントゲン科 泌尿器科
北川外科
[血液檢査每日] 平市新川町[電四六四]
醫學博士 北川芳夫
技師 小林良次
イツデモ入院デキマス。

平病院
平市警察署側(元磐城共濟病院跡) (電六四一番)
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
內科 小兒科 院長 醫學博士 鈴木定藏
產婦人科 一般外科 皮膚泌尿器科 部長 醫學士 池谷宗三郎
レントゲン科 物理的療法科 部長 醫學博士 鈴木定藏 技師 岡田重德
藥劑科 藥劑部長 藥劑師 吉本孝平
◎診療時間 每日午前八時ヨリ午後九時迄(夜間診療ニ從事ス)
往診隨時(急患ハ此ノ限リニアラズ)
病室完備……入院隨時[自炊ノ便アリ]
入院料 一日 特等—貳圓 一等—壹圓五拾錢 二等—壹圓參拾錢

高久病院
平市田町 (電話五三一番)
內科 外科 耳鼻咽喉科 レントゲン科
小兒科 花柳病科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹菊雄

中古各種レール鐵管
礦山用機械器具類
製鐵原料問屋
二大製鐵會社特約店 海軍工廠御用達
銅鐵 機械
KS 井尻七三郎商店
福島縣平市鍛冶町十一 電話五二二番
御買上品精々御安く納品致します
御拂下品は精々御高値に買受ます

診療 夜間
胃腸 性病
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
專門
(見習看護婦募集)
松村胃腸性病科醫院
(平市南町電一〇七番)

互融會事業近況
事業報告昭和十二年七月中
融通口數 一二四口
融通金額 七、三三二、〇〇
滿期拂戾金額 二四口
滿期拂戾金額 一、〇八〇、〇〇
概況昭和十二年七月末現在
會員數 七、八〇〇口
會員世帶數 五、一二四戶
積立金額 九七、四九二、三七
融通金額 三九、四四一、〇七
回收金額 四九、六九三、四〇
滿期拂戾口數 一三三口
滿期拂戾金額 一〇、九三五、〇〇

一、社會公共事業及慈善事業ヘノ奉仕
一、精神修發講話會
一、會員ノ吉凶慶弔
一、會員相互見舞
一、人事相談及婚姻ノ媒介
一、診療救血ノ補償
一、稅金ノ代納事務取扱
一、會報發刊
一、勸儉日積立金ノ獎勵
一、小資本金ノ相互融通

太平火災海上保險株式會社平中央代理店
石城中小商工互融會
事務所 福島縣平市揆植小路一番地 電話五五五番
小名濱方部 小名濱町古港
湯本方部 湯本町裏町
菊田方部 植田町濱町
相双支部 原町東一番町

土地建物 電話金融 種狸分讓
福島縣平市揆植小路壹番地
乾產業合資會社
平 電五五五番

銘木(床ノ間材)
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
万 織田材木商店へ
福島縣平市 電話平四六〇番
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試を乞ふ
營業種目 建築木材一式 銘木・ベニヤ板 秋田產・杉四分板 建具材・便利瓦

產科 婦人科 花柳病科
午前宅診 午後往診 入院應需
井坂醫院
平市田町 (元合津醫院跡)
電話五五九番

耳鼻咽喉科專門
(入院隨意 病室完備)
大和田醫院
平市南町一六番地
電一七〇番

病室增築、手術室完備
產科 婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
往診隨時
平市新川町 「電話三六九番」

男女學生夏服
高 高島屋の洋服
新柄 背廣 レンコート
既製品ニ並注文
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

御贈答品には
ニンベン
かつをぶし
宍戸屋商店
平市四丁目
電話(鹽干部)二一五番 (鮮魚部)四〇七番

產婦人科專門
(手術室完備 入院隨時)
根本醫院
平市南町五二
根本莊次郎
根本貞雄
電話三四番

兄弟三人揃つて奉公＝非常時局に輝く一家
話題の主吉田鐵工場主

國家未曾有の非常時局は至る處に一家皆兵等の感激的場面を描いてゐるが次もまた軍國意識を一段と強調する事實として人々の關心を唆るに十分なるものがある——市内堂の前鐵工場主吉田伴吉氏長男常太郎君(三九)は昨今の時局關係で最近雄々しくも出動した一人であるが、此事あつて僅かに一週間、今度は二男要二君(三五)が之亦兄常太郎君を追ふ身となつたに加へ更に三男伴三君(三一)が過般の徴兵檢査に合格見事當籤の上來るべき入營期に於て軍隊生活に入る事になつたなど一家は擧げて活々した軍國氣分に滿ちてゐる、尚ほ同家には現在中學五年、商業一年の強壯な二人の弟があり學業にいそしんでゐる

『誠に力強い……平市の躍進氣分』
初巡視の君島知事語る

濱通り初巡視のため二日來平した本縣知事君島淸吉氏は三日午前十時市役所を訪れ市會議事堂で青沼市長以下吏員一同を前にして大要左の如き挨拶をなした、知事は更に磐女、磐中、裁判所、夏井川事務所から神谷農試分場を視察約四十分間休憩の上四倉に向つた

——私は二十餘年間官吏生活をしてゐるが地方自治に就いては未だ經驗が淺く、諸君の援助に俟たねばならぬ、新興都市として躍進氣分の漲つてゐる平市は誠に力強い、從つて役所の事務も今後一層繁忙を來すだらうから時局柄一段の努力を望んで已まない

永戸に郵便扱所

川部局は今年度に於て郵便取扱が無集配局に昇格、永戸村下永井には新に郵便扱所が新設される何れも仙臺遞信局今年度の新事業である

進軍の歌 披露の夕
七日夜第三で

東日平通信部では七日夜七時から平第三小學校講堂に『進軍の歌披露の夕』を催す、指揮者は磐城高女音樂敎諭田中金三朗氏、學生、一般市民の參會を歡迎

電柱移轉 初委員會

平第三小學校敷地の電柱移轉交涉臨時委員會を三日午後二時から開き左記委員の初顏合せを行つた上今後の交涉方針を協議する

鈴木庄之助 高橋龜松 山野邊義政 鈴木光吉 大嶺庫

總取引一萬貫突破
一兩日中一時閉鎖
四倉繭市場

秋繭の出廻りも漸く峠を越して過般來買人や養蠶家で繭景氣の沸騰してゐた四倉市場も一兩日中で一と先づ閉鎖、晩秋繭の出廻りをまつて再び取引を開始することとなつたが一昨一日迄の總取引は一萬一千四百六貫三百五十匁でこの金額四萬七千七百七十一圓十二錢 最高四圓五十三錢 最低三圓四十錢 昨年同期に較べれば幾分安いがそれでもこれだけの現ナマが一時に養蠶家の懷ろに轉り込んだから今年も先づ養蠶家萬歲！と云ふ處だ

盆關係の減差僅少
去月中の送炭統計

舊盆休みの關係で去月中旬の發送高に可なりの赤字を見せた常磐炭各山元の下旬分は中旬終末期から引續き二十一日に於て全然送出が無かつた爲同期も亦前年に比し少許乍ら全面的の減少を示した。卽ち二十一日以降三十一日迄の合計は

一般事業用四、〇四三車 五〇、七四九瓲 鐵道用一、〇四五車一四、二五九瓲 合計五、〇八八車 六五、〇〇八瓲

で前年同期に比し

事業用一一三車一二一一瓲 鐵道用二四六車二、二四六瓲 合計三五九車二、三六七瓲の減差を示し、前年と盆月を異にする關係上本來なれば相當の減少を示す筈なるに反し近來に於ける增送の趨勢によつて少からず其間が緩和され全月分を前年に比べると車數に於て六百六十九車を減じてゐるが數量では尙ほ僅かとは云ふものの九百八十瓲の增となつてゐる

警務主任會 濱通り

七警察署の警務主任會は三日午前十時から縣警務課鈴木警部を招いて平署會議室に開催、警察署處務規程の改正に伴ふ事務打合せを行つた

愈よ積極的募集
一万圓を目標に
軍事後援會活動

慰問金に、献金に銃後の熱誠は益々燃え上つて行く、目標五千圓を更に倍額の一萬圓として軍人遺家族の救護に當ることとなつた平市軍事後援會では愈よ積極的資金募集に乘り出すべく明四日午後三時から市會議事室に協議會を開くが大体標準をきめて一般の愛國心に訴へる方針であると

千人針千枚
磐女で作製に精進

磐城高女では生徒の手によつて『武運長久』と染め拔いた千人針千枚を作製、第一線に活躍する兵隊さんへ贈ることゝなつた、經費は過般縣体育大會で優勝した折取り止めた慰勞會費をこれに當てると

献金相次ぐ

青沼市長は百五十圓、市内新川町松崎菊三郎氏は百圓を、又中平窪字杉内松本一郎氏は二十圓を、何れも軍事後援會へ

○

平料理屋組合では二、三の兩日に亘つて幹部により約百圓を醵出

○

磐城高女四年生岡田ユキ子さんは慰問袋一個、市内二丁目都甲キヨさんは下帶百本を何れも市役所へ

第二新級長
今日任命式

平第二小學校では第二學期の正副級長を左の如く決定六日任命式ある筈

（三ノ一）小齋春子 谷口節子 （二）關原トシ子 宮川幸子 （三）藤田耀子 關内美佐子 （四ノ一）高田玉惠 阿部比奈子 （二）渡邊マサ子 大谷輝子 （三）横山ケイ子 吉田昭子 （五ノ一）鈴木悅子 佐藤惠美子 （二）小原喜惠子 山本タカ子 （三）佐々木雅子 野村愛子 （六ノ一）星野春 羽石芳江 （二）淺野瑛子 增井ヤス （六ノ三）太田二三子 柴田三保子 （高一ノ一）松崎トシ子 鈴木松枝 （二）伊藤榮子 作山淸子 （三）佐藤正子 若松トモ子 （高二ノ一）江尻キヨ子 天野フミ子 （二）西郷絹子 新妻英子 （三）鈴木光子 佐藤喜代

草野村に眠り病
縣技師急遽來村す

草野村大字下神谷字赤根八六富一郎三男彌塚辰雄君(一五)同村馬目皮字宮下二〇末孝氏三女渡邊フミさん(八)は去月二十八日發病、眠り續けてゐるので神谷村大瀧醫師の診察を受けてゐたが二日嗜眠性腦炎と決定、縣衞生課から三日中曾根技師が出張發生系統その他の調査中である

平署に博徒氾濫
江名、湯本、内郷から 二十名の大量檢擧

平署では數日前から管内の博徒狩りに手を染め三日未明迄江名、湯本、内郷から左の如く二十名を一齊檢擧取調べに忙殺されてゐる、留置場の外演武場、小使室宿直室など至る處博徒氾濫と云ふ時ならぬ盛況振り？取調べによつてなほ擴大するものと見られる

△江名町—長谷川丑太郎(五二)高岡久一(三五)佐川國三郎(四七)白土國治(四二)石井由次郎(三〇)鈴木庄吉(三七)藤田常藏(四四)太定雄(四四)

△湯本町—後藤平(三八)門傳磐夫(三六)高橋長助(五二)中野與市(四八)越智新一(四三)

△内郷村—森合行成(三四)山崎仁孝(三三)吉田幸作(四二)沼倉榮松(三三)泰藤次郎(四八)佐藤今一(五八)關根巳之吉(五五)

初秋の大谷川畔 一歩前で救はる
男—内郷 女—平市 日光で心中未遂

昨四日夕刻暮色漸く迫る日光大谷川に相抱いて投身せんとした男女あるを通行人が發見、死力をつくして之を支へ、危い處を助けたが右は内郷村大字宮字峰根渡邊淸(二六)平市仲町仁平ふみ(一八)の兩名で目下日光署で保護中の旨實家へ通知あつたと云ふが原因は晴れて一緒になれぬのを悲觀したらしいと

赤井藥師祭
いよ〳〵あす

踊りと唄に一夜を明かす關迦井藥師の大祭はいよ〳〵あすだ、今年は既報の如く時局柄武運長久や戰捷祈願の善男善女で例年以上の人出を見るだらうと云ふのでバスの運轉手連も『全く休む暇なんてないぞ！』と早くも當て込んでゐる。例年の如く赤井驛前に踊り櫓が立つ筈だ、兎に角地方での最後の踊り場だけに若衆連の心をはずませてゐる

平商運動會

平商業學校の秋季運動會は來月十三日同校々庭で催される、當日は呼物の小學兒優賞旗爭奪六百リレーもあり賑ひを豫想される

青年團對抗軟式野球

平聯合青年團主催で十四、五の兩日第一小學校々庭に各團の對抗する申込みは十日迄

。。。勸業主任會。。。

濱三郡市町村勸業主任會を九日午前九時から平第三小學校に開く

湯本の違反 二名は罰金

既報、選擧違反事件で平檢事局櫻井檢事の取調べを受けてゐた湯本町天王崎製絲業阿部喜作松(五四)並に同町料理業白鳥助太郎(四〇)の兩名は三日略式で罰金各三十圓、左記七名は起訴猶豫の恩典に浴した

△湯本町喜作松長男阿部謙二(二六)同人母阿部ヤスノ(四八)同町傾城日雇業今泉勝義(五四)同町三函齋藤豐吉(四四)同町淺貝佐藤直意(四二)同下淺貝高橋源之助(五〇)同榮田坑夫藤田兵吾(四五)

。。。スリに懲役十月。。。

湯本踊り場のスリ漢——神奈川縣生れ大山辰太郎(四五)は二日平區裁判長から求刑通り卽決で懲役十月の判決

。。。青年學校始業式。。。

平青年學校の始業式は晝間が四日夜間が七日執行

市民へ福音
補給金交付のお蔭で 平均三圓六十錢減額
平市の本年度分戶數割

町村財政の緩和上齎す處頗る大なるものとして夙くから期待された昭和十二年度の臨時地方財政一般(町村)補給金は本郡下に對し二十二萬六千百七十二圓を配當された、内譯左の如く平市は市制實施の三月末現在を基準として交付されたもので本年度限りであるが、右交付金中約一萬二千餘圓を雜種税附加税の輕減に、更に約二萬圓を戶數割の同上目的に充當する結果新市域五千五百四十六戶に對する戶數割の一戶當り平均は約三圓六十錢輕減される、賦課戶數の增加による一戶平均額は十七圓七十錢だから結局一戶當り十四圓十錢位になるわけである

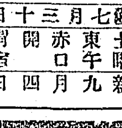
平	二七、五〇三(圓)
泉	六、八二〇
植田	二、一〇八
錦	四、三五三
上遠野	八、〇八五
川部	四、五八〇
荷路夫	四八九
石住	三六九
夏井	四、三二六
豐間	八、二〇九
鹿島	二、五四九
玉川	三、四五〇
湯本	一、五一七
好間	一、一〇九
永戸	四、九四三
澤渡	三、一五七
神谷	五、六六二
大浦	七、三五一
大野	三、五二一
下小川	三、三〇二
平窪	四、七四二
渡邊	三、一八一
山田	四、九五八
勿來	一一、六〇八
入遠野	六、九六五
田人	三、〇〇九
貝泊	二五八
飯野	三、七〇五
高久	四、九二一
江名	一一、七五七
小名濱	一八、五六五
磐崎	五、八一八
内郷	一一、七七五
赤井	八、七九〇
箕輪	三、五〇三
三阪	四、七三二
草野	六、三二二
四倉	七、一七七
上小川	三、四二〇
川前	六、五八〇

誤吒府

君島良二千石にとつて平市は學生時代に於ける曾遊の地である旨昨報の通りであるが、其時は當時田町に住んでゐた知人の遠藤平兵衞翁方へ泊り、下駄を穿き違へた事を歸京後はしめて感づいたので早速陳謝の手紙を出した處翁から『下駄はどうでも良い、ウンと勉强して將來の大成を期する樣』と激勵されて當時短褐高履の一高生であつた君島青年大に感奮したのであつた……のであつたと昨夕住吉屋本店の晩餐後に於ける三十年前を顧みての述懷とある

四日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前三、〇〇 後三、二五
干潮 前一〇、〇〇 後一〇、五〇

舊七月三十日 土曜 東午 赤口 開 胃宿 新九月四日



諸判定廳督 東京市本鄉區湯島四丁目 高島易斷總本部 神誠館

▲一白 かん天に雨を待てど唯くもの過ぎ去りし如き日▲二黑 勝利の榮冠をにぎるには十分なる誠意に有り▲三碧 萬事不足勝に過ぐる日焦れば更に大凶なり▲四綠 光陰矢の如し寸時も惜みて活動するが勝ち▲五黃 靜より動に移ろうちよせず大に勵めば成功す▲六白 物事急げば急ぐほど行詰りを生ずるに至る▲七赤 短氣を起して後々に災をのこすことあり注意▲八白 ほぞを固め足を踏締め根能く進めば希望達す▲九紫 志堅固に元氣を出して勵むときは功成る

復寫鮮明 筆觸快適 ゼネラル カーボン紙 魁文堂 電話313番

◎日本石油株式會社特約店 ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店 電話六一番
本店 水戸線下館驛前 (電話五五・三三九番)
支店所在地 茨城縣土浦町田宿(電話六五三) 常磐線關本驛前(電話平潟五四) 常城線四倉驛前(電話四八) 久慈濱支店(電話一三七番) 小名濱支店 海上給油及油槽所 大津平潟 江名濱
營業種目 石油、揮發油、輕油、重油、マシン油、モビール油、機械油類、植物油、胡麻油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ

眼鏡專門の店 自覺視力試驗の設備もあります。御自由に御試し下さい。
各眼科處方調製 玉屋眼鏡店 平市二丁目

待望ノ新軍事曲來る 東京日日新聞社當選歌レコード
コロンビア A 進軍の歌 B 露營の歌
ポリドール A 日本陸軍の歌 B 軍艦行進曲
平市五丁目 金光堂時計店 電話一九五番

醫學士 吉田久雄 吉田眼科醫院 平市紺屋町 電話六八番

旅舍 大幸館 電話下谷㊇六七七番 東京上野驛前 下谷郵便局横通角
私は平市出身ですから特に鄕里の皆樣方の爲めに御便宜を圖ります 主人 比佐棟雄

カメラ材料 藥品百貨 平電話3番 西村屋藥局